

2024.3
—
Vol.14

苫小牧CCUS ゼロカーボン・ 推進協議会通信

Carbon dioxide Capture,
Utilization and Storage / Carbon Zero

苫小牧CCUS・ゼロカーボン推進協議会



ゼロカーボンの動き

苫小牧におけるCCUS



液化CO₂の船舶輸送実証事業

実証船完成 地上設備も完成間近

令和3年度より行われている液化CO₂船舶輸送実証は、令和6年下期からの輸送実証開始に向け設備等の建設が進められております。

令和6年3月時点において、苫小牧側の陸上設備の建設進捗率は約95%、舞鶴側の陸上設備の建設進捗率は約73%となっております。

実証船は、令和5年11月に完成し、『えくすくう』と命名されました。



提供:NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)/山友汽船株式会社



提供:日本CCS調査会

苫小牧エリアでのCCUS事業化に向けた取り組み

2030年度からのCCUS事業化にむけて

令和5年6月、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構は、国内初のCCS事業化に向けた取り組みである「先進的CCS事業実施に係る調査」に関する委託調査業務の公募を行い、立地企業3社による、苫小牧エリアでの検討を行う案件も採択されました。

令和5年度は主に事業実施に向けた調査業務が行われ、令和6年度以降は再度の公募を経て設備等の建設を含めたより具体的な取り組みが進められる予定です。



出典:独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構



出典:独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構



2050年 カーボンニュートラルに向けた各種計画策定

苫東GX-HUB構想

国土交通省は、「令和5年度苫小牧東部地域におけるカーボンニュートラルの推進等に関する調査業務」の委託事業(委託先:EPIコンサルティング合同会社)の一環として、北海道、株式会社日本政策投資銀行、株式会社苫東、苫小牧市の協力のもと、苫東地域のカーボンニュートラル化を目指す「苫東GX HUB構想」を取りまとめ公表いたしました。その概要は以下の通りです。

- 既存の太陽光発電活用に加え、大規模に再エネを導入し、自営線によって立地企業に送電する「再エネマイクログリッド」を構築することで、安価な再エネ電力を供給可能。
- 余剰再エネ電力により水素・アンモニアを製造し、熱、運輸需要等に供給することで立地企業の脱炭素化とエネルギーの地産地消を実現。
- 将来的にCCUSとの連携も含め、苫東地域において再エネ・水素・CCUSのインフラを包括的に提供し、新規立地を含む苫東立地企業のカーボンニュートラル化を目指す。



出典:EPIコンサルティング合同会社

苫小牧港港湾脱炭素化推進計画

国土交通省では、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や、水素・アンモニア等の受入環境の整備等を図るCNPの形成を推進しており、今般、改正港湾法において、CNP(カーボンニュートラルポート)の形成を推進する仕組みとして、港湾脱炭素化推進計画及び港湾脱炭素化推進協議会に関する規定が新設されました。

苫小牧港においては、令和5年3月に苫小牧港CNP形成計画を策定・公表したところですが、改正港湾法に基づいてCNP形成に向けた検討を進めるため、苫小牧港港湾脱炭素化推進協議会を設置し、令和6年度中の苫小牧港港湾脱炭素化推進計画の策定に向けた検討が進められました。



令和5年度の主な活動



苫小牧ゼロカーボン講演会の開催 令和5年7月3日

場 所: グランドホテルニュー王子

参加者: 会員・オブザーバー他(約120名)

講演1: 我が国のCCUS政策と今後の展望

経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部
石油・天然ガス課 企画官(CCUS政策担当)
佐伯 徳彦 氏

講演2: 苫小牧におけるCCUS政策実現に向けた取組について
石油資源開発(株) 常務執行役員 環境事業推進部担当、
新規事業推進部担当 池野 友徳 氏



部会勉強会の開催 令和5年8月31日

再生可能エネルギー・水素、運輸・データセンター・半導体専門部会の勉強会を開催しました

場 所: グランドホテルニュー王子

参加者: 部会員、商工会議所会員ほか 約100名

講演者: 北海道電力(株)、ENEOS(株)、スパークス・グリーン&テクノロジー(株)、資源エネルギー庁

CCS講演会「地球温暖化とCCS」の開催 令和6年3月16日

場 所: グランドホテルニュー王子

参加者: 一般市民(約200名)

講演1: クマに学ぶ その不思議な生態と生理

北海道大学 大学院 獣医学研究院 野生動物学教室
教授 坪田 敏男 氏

講演2: 我が国のCCS政策と苫小牧

経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部
燃料環境適合利用推進課 CCS政策室長 佐伯 徳彦 氏



スマートエネルギーWEEKへの出展 令和6年2月28日～3月1日

関係機関と連携し、スマートエネルギーWEEKに出展しました。エネルギー分野に関連する世界最大級の総合展示会で、苫小牧ブースにおいては、苫小牧市で行われているCCS実証事業や、ゼロカーボンの取り組み、苫小牧市の立地に関する環境などを幅広くPRし、多くの方々にお立ち寄りいただきました。

来 場 者: 会場全体 69,261名 苫小牧ブース 200名

共同出展者: 日本CCS調査株式会社、苫小牧東部開発連絡協議会、
苫小牧地区企業誘致連絡協議会、北海道



苫小牧ゼロカーボングランドデザイン検討部会の新設 令和5年7月～令和6年3月

地元企業が地域全体の取組方針、活動目標を「グランドデザイン」として共有し、ゼロカーボン産業都市を実現することを目的とし、2030年、2050年に向け、ゼロカーボンと地元産業が両立する、先進的な技術の社会実装を見据えたロードマップとしての「グランドデザイン」策定に向けた検討を行うべく、苫小牧CCUS・ゼロカーボン推進協議会の部会の1つとして「ゼロカーボングランドデザイン検討部会」を設置し、検討を開始しました。



その他の動き

令和5年

- 6月: 春季海洋環境調査
- 7月: 第1回 理事会・総会
苫小牧ゼロカーボン講演会
「脱炭素社会実現に向けた産業界の取組」
- 7月: 第1回 苫小牧港における次世代エネルギーの供給拠点の形成に向けたWG
- 7月: 第1回 グランドデザイン検討部会
- 8月: 第1回 苫小牧港港湾脱炭素化推進協議会
- 8月: 再エネ・水素・運輸・データセンター・半導体専門部会 水素勉強会
- 9月: 夏季海洋環境調査
- 9月: 第1回 苫小牧港におけるブルーカーボン生態系の創出に向けたWG
- 10月: 第2回 理事会・総会(書面)
- 10月: 第2回 苫小牧港における次世代エネルギーの供給拠点の形成に向けたWG
- 11月: 秋季海洋環境調査
- 12月: 第3回 苫小牧港における次世代エネルギーの供給拠点の形成に向けたWG
- 12月: 第1回 グランドデザイン検討WG

CCS実証試験センター視察実績

視察者数 262グループ 2,946名

4/26: 国立研究開発法人科学技術振興機構	19名
6/6: 苫小牧市 環境保全課	14名
6/16: 公益社団法人低温工学・超電導学会	15名
7/2: 北海道	11名
7/4: ブルームバークニュース	2名
7/19: ガスエネルギー新聞	22名
7/20: 八王子市議団	27名
7/25: 札幌開成中等教育学校	26名
8/7: イオン苫小牧チアーズクラブ	16名
8/8: 茨城県	6名
8/17: 秋田県	4名
8/21: 胆振総合振興局	12名
9/23: 鈴木直道北海道知事	32名



10/13: 安平町立追分中学校	17名
11/14: 天然ガス鉱業界	11名
2/2: 北洋大学	26名
3/1: 村瀬佳史資源エネルギー庁長官 ほか	21名

令和6年

- 1月: 第2回 グランドデザイン検討部会
- 2月: 第2回 苫小牧港港湾脱炭素化推進協議会
- 2月: 苫東GX HUB構想 策定
- 2~3月: スマートエネルギーWEEK
- 3月: 第4回 苫小牧港における次世代エネルギーの供給拠点の形成に向けたWG
- 3月: 第2回 苫小牧港におけるブルーカーボン生態系の創出に向けたWG
- 3月: 第2回 グランドデザイン検討WG
- 3月: 第3回 グランドデザイン検討部会
- 3月: CCS講演会「地球温暖化とCCS」

広報周知活動 苫小牧とその近隣地域



苫小牧CCUS・ゼロカーボン推進協議会通信 Vol.14

2024年3月発行

作成

苫小牧CCUS・ゼロカーボン推進協議会
(事務局: 苫小牧市産業経済部)

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kigyoritchi/>

【問合せ先】苫小牧市産業経済部企業政策室 港湾・企業振興課
〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号
Tel (0144) 32-6438 FAX (0144) 34-7110
E-mail: kigyo@city.tomakomai.hokkaido.jp